

Family 380号

2018年 1月

北海道支部(北海道)

- ◆ 2017年度 FUJITSUファミリー会 秋季大会
- ◆ 講演録 厳島神社の歴史と魅力
- ◆ 講演録 挑戦～困難な壁やハードルへ立ち向かえ～
- ◆ LS研究委員会 活動報告・ICT白書
- ◆ From名古屋 名古屋の繁栄を支えた未曾有の都市計画

みんなと共に
がんばろう!
東北

がんばろう!
熊本・九州



- 内田会長を迎えて / 年頭のごあいさつ 2
- 秋季大会特集 4
- 講演録 6
県立広島大学人間化学部教授
 (元 宮島学センター長) 秋山 伸隆 氏
- 講演録 8
元 陸上競技選手
 一般社団法人アスリートソサエティ
 代表理事 為末 大 氏
- LS研究委員会 10
- HUMAN HUMAN 14
フリーライター
 公益社団法人日本山岳ガイド協会
 認定登山ガイド 柏 澄子 氏
- Family's Information 15
- クロスワードパズル 17
- 支部見聞録(東海支部) 18
From 名古屋

Family 2018 **380**号



表紙のことば (日本の鳥シリーズ)
 北海道支部
 タンチョウ(北海道)

1952年、国の特別天然記念物に指定されたタンチョウ。全長130~140cm、翼開張220~250cmほどで日本産ツル類のうち最も大きい。釧路川・雪裡川流域に留鳥として一年中生息し、釧路湿原のシンボリック的存在。

内田会長を迎えて

魅力あふれる
 ファミリの輪を
 さらに広げ、さらに強固に——。

s a t o r u u c h i d a

2017年5月より会長に就任された内田悟氏に、これまでの活動を通して感じられた思いと、2018年を迎えて、ファミリー会のさらなる飛躍を目指す今後の取り組みについて、お話をうかがいました。

FUJITSUファミリー会 会長
 JXアイティソリューション株式会社
 代表取締役社長

内田 悟 氏

FUJITSUファミリー会の会長を務めさせていただき、7カ月が過ぎました。これまで一会員として各種行事に参加してきましたが、新たに会長という責務を担い、様々な活動を経験させていただく中で、あらためてファミリー会の意義の大きさを実感しております。

恒例の春季・秋季大会では全国からそれぞれ1,000人を超える会員・関係者の方々が集いました。このような盛況な大会を開催できるユーザー会は国内でも例を見ず、ICT業界における日本最大のユーザー団体であるFUJITSUファミリー会の存在の大きさを肌で感じる機会となりました。また事務局の皆さん、各支部の方々がこの会のために情熱を持って、ひたむきに取り組んでいらっしゃる姿も印象的でした。こうした取り組みは一夜にしてはなりません。会員の皆様の努力と長い歴史に築かれて、いまのファミリー会があるのでしょうか。

また7月には東北、熊本の復興を支援する企画として、地域活性

フォーラムを仙台で開催しました。こちらも全国各地から会員の方々にお集まりいただき、その熱意に感じ入りました。社会貢献の観点からも、継続的な復興支援に取り組んでいきたいと思っております。

11月にはドイツで初となる海外セミナーが開催され、総勢19名で経済セミナーの受講、企業視察を行いました。同時期にドイツで開催された富士通フォーラムにも参加しました。ヨーロッパ市場で存在感を示す富士通の姿は、日本人としても胸をはれる立派なものだと強く感じました。実り多き旅となり、今後もぜひ多くの会員の方々に参加していただけるよう、引き続き様々な企画を提案していければと考えています。

ファミリー会の魅力は、大きく三つあると思います。一つは富士通の最新の技術や情報を入手できること。二つ目は大小様々なイベントがあり、会員企業の事例や工夫努力などが共有できます。それを自社に持ち帰れば一段上のチャレンジにもつながります。三つ目は豊かな人材交流。

年頭のごあいさつ

2018会報Family新年ご挨拶



普段接することのできない世界に触れ、自身の体験に取り込んでいただけたと思います。すべて個人の成長と企業の発展に貢献する取り組みだと信じています。

今後の重要な課題としましては、現在のイベントやセミナーなどの中身をさらに拡充させると同時に、ファミリー会の輪をさらに大きくしていくことです。会員数は単なる数字ではなく、会の力のバロメーターでもあります。本年は4,000会員の達成を一つの目標に掲げ、共に努力を重ね、さらなる充実を図っていきたいと考えています。

会員の皆様には、これまで以上にファミリー会の場を大いに活用していただくとともに、2018年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

— 動画配信 —

内田会長に趣味と座右の銘をうかがいました。動画で視聴できます。



富士通株式会社
代表取締役社長

田中 達也 氏

あけましておめでとうございます。会員の皆様には、日頃より格別なるご高配をいただきまして厚く御礼申しあげます。本年が皆様にとりまして、よい一年となりますことを心からお祈り申し上げます。

さて、富士通では、デジタル革新の実現に向けて、エコシステムを通じて価値を生み出す Digital Co-creation を昨年からテーマに掲げております。お客様の新たなチャレンジにおけるチームの一員として貢献していくために、ICT 分野にとどまらない幅広い専門力の強化に取り組むとともに、ファミリー会の皆様をはじめ、多くの企業や団体の皆様との連携強化を進めております。お陰様で、この取り組みは国内外で多くのお客様より高く評価いただき、具体的なプロジェクトが進展しています。2018 年はこれをさらに一歩進め、会員の皆様とともにしっかりとその成果を実感できる年にしてまいりたいと存じます。

同時に、テクノロジー企業としての原点を大切に、AI の高度化や新たなコンピューティングテクノロジーなど、数々のブレークスルーの実現を目指し、技術力においても皆様からの信頼に一層お応えできるよう、努力してまいります。

これからも、皆様との連携を一層深め、豊かな未来の実現に向けてともに歩んでまいりたいと存じますので、何卒、倍旧のご指導、ご鞭撻をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。



広島県安芸高田市の日吉神楽団による八岐大蛇のウェルカムイベントで幕を明けた2017年度のFUJITSUファミリー会秋季大会。広島に全国から1,000人を超える会員や関係者が集まりました。内田会長は「力の源である会員数増、継続的な震災復興支援、グローバル人材の育成、といった3つの思いで会を盛り上げていきたい」と挨拶。来賓の広島県湯崎英彦知事からの歓迎の祝辞に続き、富士通の田中達也社長からは、働き方改革に向けてICTを活用したどこでもワークの推進で貢献したい旨が伝えられました。特別講演、記念講演、3つのセッションに続き、懇親会では和やかな雰囲気の中、会員同士が歓談。次回の開催地・長野での再会が呼びかけられました。



FUJITSUファミリー会
会長
内田 悟 氏



広島県
知事
湯崎 英彦 氏



富士通株式会社
代表取締役社長
田中 達也 氏



司会
左/フリーアナウンサー
久保田 夏菜 氏
右/大林 孝至 氏

セッション 1

「ピンチはチャンス
～山奥の小さな蔵だから出来たこと～」

旭酒造株式会社 会長
桜井 博志 氏



「美味しくなければ酒は価値なし」。山奥の過疎地であるゆえの長年の課題脱却から、一番良い状態のお酒をお客様に、販売の増減にも柔軟に対応することを目指し「四季醸造体制」を確立。さらに既存の市場にこだわらず、販路を東京、世界へと広げていく。「獺祭」の原料である「山田錦」の安定的な確保をICT活用により実現したことを紹介した。

ご参加者の声

取り立てて特徴もなく、どこでもあるようなものではダメだということから「獺祭」造りが始まった。材料は、山田錦にこだわり、人材は、杜氏から社員へと常識にとらわれず、製品は、純米で大吟醸に集中した。上手いいかない時、苦境に立った時、ぶれることは多いが正しいという思いを貫いたのは立派だと思いました。

セッション 2

LS 研究委員会 / 2016 年度 Leading-edge-Systems 研究 / 最優秀賞受賞
「運用ログを活用したアノマリ事象の検知と活用に関する研究」

株式会社大和総研
ビジネス・イノベーション
金融システム開発本部
金融システム開発第三部
課長代理 久保田 佳之 氏



「明日から使える（始められる）障害予兆検知」の成果を得ることを目的とした研究について。アノマリ検知技術による障害予兆検知の導入ハードルを下げるための手法の考案を報告。「わかりやすさ」「可視性」「試用可能性」で既存ツールよりも優れている活用ツールとして利用方法と合わせて、整理・体系化について紹介した。

ご参加者の声

アノマリ事象の検知とは何だろうか？と拝聴しました。めったに起きないことが起きたら異常に違いないという考えのもと、運用ログの周期性に着目し加工・分析して、いち早く異常を検知する。この「いつもと違う」を簡単かつ自動的に検知できれば、システムを運用する側にとっても大変役立つものになると思いました。

セッション 3

「Human Centric AI Zinraiによる
デジタル革新 ～ブームから実用化へ～」

富士通株式会社 執行役員
原 裕貴



最近の人工知能の話題や、身近な現場への活用が進んでいる状況を交えながら、実応用へも急速に広がる現状を報告。そうしたデジタル社会に答え、富士通では、既にヘルスケア、社会インフラ、流通など多様な分野で導入されている活用事例を多数紹介しながら、実用化へ加速するためのソリューション「Human Centric AI Zinrai」を紹介した。

ご参加者の声

Zinraiを活用した最先端の研究内容をたくさん紹介いただきました。特に、画像解析技術を応用した部品の検索や、アノマリ検知によるサイバー攻撃予測などが印象的。AIの特徴である「結果の根拠や理由を説明できない」という問題の解決にまで取り組まれている点は、ユーザーとして期待したいです。

特別講演



「厳島神社の歴史と魅力」

県立広島大学人間文化学部教授
(元 宮島学センター長)
秋山 伸隆 氏

ご参加者の声

厳島神社で最も象徴的な大鳥居、海底に載っているだけで埋め込みではなく、自身の重さで自立していることや、海水に浸る傷みやすい部分だけ取り換える「根継ぎ」が行われているのも、初めて知りました。大会後実際に訪れてみて、改めて感慨深くなりました。

※本講演録は本号P6-7に掲載

記念講演



「挑戦

～困難な壁やハードルへ立ち向かえ～

元 陸上競技選手
一般社団法人アスリートソサエティ
代表理事 為末 大 氏

ご参加者の声

先入観、価値観、どれだけの思い込みが我々にはあるのだろうか。自らの考えを超越することの難しさは誰もが知っている。でも変化のチャンスはふとしたきっかけかもしれない、そんな気づきをさせてくれる講演でした。

※本講演録は本号P8-9に掲載

懇親会

中国地方を
代表する
日本酒での
「鏡開き」



大会旗リレー



乾杯



FUJITSUファミリ会
副会長
西崎 宏 氏

挨拶



FUJITSUファミリ会
信越支部長
赤沼 正信 氏

中締め



FUJITSUファミリ会
中国支部長
渡辺 泰朗 氏

オプション行事



【視察A】
世界遺産「原爆ドーム」&「宮島」めぐり



【視察B】株式会社サタケ様と
酒処西条酒蔵めぐり



【視察C】海上自衛隊第一術科学校
(旧海軍兵学校)と大和ミュージアム



【視察D】
ひろしまりパークルーズ、おりづるタワーと広電千田(せんだ)車庫

【視察E】 鞆の浦

【視察F】 株式会社島根富士通と出雲大社めぐり

【視察G】 角島・元の隅稻成神社・
世界遺産「萩」と憧れの宿大谷山荘(1泊2日)

【ゴルフ】 広島カンツリー倶楽部

講演録

厳島神社の歴史と魅力



2017年度
FUJITSU ファミリー会 秋季大会
特別講演

県立広島大学人間文化学部教授
(元 宮島学センター長)

秋山 伸隆 氏

profile

あきやま のぶたか 1953年鳥取県生まれ。1975年広島大学文学部史学科卒業。同大学大学院文学研究科博士課程を経て、広島大学文学部助手、広島文化女子短期大学助教授、広島女子大学国際文化学部教授等を歴任。現在、県立広島大学人間文化学部教授(日本中世史)。元 宮島学センター長。『戦国大名毛利氏の研究』『宮島学』など著書、共著多数。

● 厳島神社の歴史

県立広島大学は3つの県立大学を統合し、2005(平成17)年に開学いたしました。その翌年から文部科学省の支援プログラムとして、「学生参加による世界遺産宮島の活性化」という事業を3年間続け、2009(平成21)年4月、その事業の成果を継承・発展させるために学内に「宮島学センター」を設置いたしました。センターでは専任や併任の教員それぞれが専門の研究や授業

を展開し、宮島の歴史的・文化的価値を高めるとともに、公開講座などを通して地域社会の活性化や観光振興に貢献するための活動しております。

厳島神社は、推古天皇元年の593年に創建されたと伝えられております。祭神は、市杵島姫

命(いちきしまひめのみこと)、田心姫命(たごりひめのみこと)、湍津姫命(たぎつひめのみこと)で、2017年に世界文化遺産に登録された福岡県の宗像大社と同じ航海の安全を守る海の神様です。厳島神社という名前は、811年の『日本後紀』に記述されている「伊都岐島(いつきしま)」が初出といわれております。「斎(いつき)(=神に仕える)島」が語源とされ、古くから島そのものが信仰の対象になっていました。その後、安芸国一宮として最も重要な神社の地位を確立していきます。

現在のような規模の海上社殿は平安時代末期、1168年から2年をかけて平清盛により造営されたもので、

神社には「平家納経」はじめ、平家縁の貴重な品々が伝えられております。厳島神社は、鎌倉時代に2度にわたって火災にあい、大きな被害を受けましたが、記録によると清盛の時代の社殿を忠実に復元し再建するという形で現在まで至っております。

最も重要な本殿は、戦国時代にこの地域を支配していた毛利元就によって再建されました。本殿再建には相当な費用がかかったのですが、その費用は毛利家が管理していた石見銀山からの収入で賄われました。神社には毛利家の家臣が奉納した重要文化財にも指定されている舞楽の衣装や、石見銀山の銀で作られたと推定される狛犬などが収められております。島根県の世界文化遺産である石見銀山と厳島神社のこのようなつながりは、まだあまり知られていないことです。

● 海上社殿を維持する工夫

厳島神社の特徴は何と云っても、海の上に建てられた社殿です。当然ながら、高潮や台風、塩害の被害は必至ですので、修繕することを前提に建てられたといっても過言ではありません。社殿の沖合200mほどの海上に立つ有名な「大鳥居」も、これまで台風や落雷によって大きな被害を受け、現在のものは1875(明治8)年に再建された8代目です。2本の太い樟(くすのき)を主柱として立つこの鳥居は海底に埋め込まれているのではなく、海底に作られた土台の上に乗っているだけです。鳥居の一番上にある「笠木」「島木」と呼ばれる箱状の構造になっている屋根のような部分に石や砂利がぎっしり詰め込まれ、総重量約60トンと推定されるその重みで自立し、風や波に耐えながら立っているのです。

大鳥居や社殿の海水に浸かって傷んでしまった部分は、切り取って新しい柱に取り替える「根継ぎ」という工

事を行いながら維持されています。朱塗りの美しい廻廊も厳島神社の魅力のひとつですが、この廻廊の床板は、板と板の間にわずかなすき間が空いています。これは台風や高潮で海面が上昇したときに社殿が持ち上げられることを防ぐ独自の工夫です。このすき間は、上昇してきた海水を逃がすほか、壁がない廻廊に吹き込んだ雨水を下に落とす働きもあったと思われます。その長い廻廊に囲まれるようにして立つ能舞台は、世界でただひとつの海の上に浮かぶ能舞台として高い人気を誇っています。

歴史ある神社であり有名な観光地といえども、天候によっては参拝を中止しなければならないときもあります。厳島神社はこのような過酷な条件の下で、その美しさを守っているのです。

● 軍事の重要拠点だった宮島

戦国大名の毛利元就が中国地方を支配するきっかけとなったのが、1555(弘治元)年の厳島合戦です。その舞台となった宮島は、広島湾の西側の入口を押さえる場所にあり、軍事的にも経済的にも極めて重要な場所でした。「松島」「天橋立」と並ぶ日本三景として知られる宮島は、実は戦争と深くかかわってきた場所でもあります。毛利輝元が築城した広島城は非常に広い範囲を占めており、廃藩置県後、ほぼすべてが陸軍第5師団の本拠地となりました。さらに、呉には海軍の拠点となる呉鎮守府が設置されました。広島と呉を防衛するために広島湾一帯には要塞が築かれ、宮島にも砲台が3カ所築かれました。

今では高校野球の応援などで有名になった広島の杓子しやくしですが、もともとは広島しやくしの宇品港から出征する兵士たちが、出征の前に「武運長久」と書いた杓子を千畳閣の柱に打ちつけていったのが始まりといわれております。「飯をとる」杓子に、「敵を召し捕

る」という言葉をかけて奉納したと伝えられています。

厳島神社と原爆ドームは、1996(平成8)年、同時に世界文化遺産に登録されました。同じ広島県内のわずかな範囲に2つの世界遺産を持つことは全国でも珍しいケースだと思います。平安時代の建造物と第二次世界大戦を物語る建造物。全く関係がないように思えますが、実は意外なつながりがあるのです。

原爆ドームは1915(大正4)年に広島県物産陳列館として、チェコ人の建築家、ヤン・レッツェルの設計により開館しました。レッツェルは、宮城県にあった松島パークホテルも設計しており、このときの宮城県知事に気に入られ、彼が広島県知事に転任した際、広島県物産陳列館の設計をレッツェルに依頼したといわれています。さらに、レッツェルは宮島にあった宮島ホテルも設計しました。このホテルは多くの外国人たちに利用され、戦後は占領軍の保養施設として接收される中、1952年、残念ながら火災で焼失してしまいました。もし残っていたら、宮島と原爆ドームのつながりを示す貴重な建物となっていたはずでした。

● 世界とつながる遺産

厳島神社は、海外の世界遺産ともつながりを持っています。日仏交流150周年を記念してフランス政府が作成したポスターに、厳島神社の大鳥居とモン・サン＝ミシェルがデザインされています。どちらも宗教上の聖地であり、海に囲まれた世界文化遺産です。モン・サン＝ミシェルはご存じの通り教会ですが、フラン

スとイギリスが戦った百年戦争の際には要塞に変わりました。信仰の対象である宮島もモン・サン＝ミシェルも、戦場だった時代を乗り越えてきたのです。さらに興味深い共通点として、戦時に島を守るための手段として、どちらも「水」を備えていたことが挙げられます。島ですから真水を確保することが非常に難しい。宮島には今でも江戸時代に掘られた井戸が何カ所も残っています。大きな川がありませんから、井戸の水が人々の命の綱でした。厳島合戦当時は、人々は雨の水や小さな川から水をくみ水瓶にためて家に備えていた



ようです。毛利氏は厳島合戦の数カ月前から命令を出し、宮島の人々の家から水瓶を徴発して、城に運ばせたということが資料として残っております。モン・サン＝ミシェルも貴重な水を確保するために、戦時中は巨大なプールのような貯水槽が作られ、イギリス軍の攻撃に備えていたということです。水を絶たれた城は一日か二日で降伏することがあるくらい、戦争の際には水は非常に重要なものだったのです。

2018年は、平清盛生誕900年という節目の年に当たります。これを機に、さらに多くの皆様に、世界文化遺産の宮島、厳島神社の魅力をご堪能いただければと思っております。

講演録

挑戦

～困難な壁やハードルへ立ち向かえ～



2017年度
FUJITSU ファミリー会 秋季大会
記念講演

元 陸上競技選手
一般社団法人アスリートソサエティ
代表理事

為末 大 氏

profile

ためすえ だい 1978年広島県生まれ。スプリント種目の世界大会で日本人として初のメダル獲得者。3度のオリンピックに出場。男子400メートルハードルの日本記録保持者(2017年10月現在)。

現在は、アスリートと社会を繋ぐ一般社団法人アスリートソサエティの代表理事を務める。新豊洲Brilliaランニングスタジアム館長。主な著作に『走る哲学』、『諦める力』など。

● 思い込みが限界を作る

2012年に現役を引退して5年目になりますが、これまで私がたどってきた道は、競技も人生も、まさに“ハードル”を越え続けてきた道でした。その中で一番実感していることは、「人間にとって最も大きなハードルはメンタルだ」ということです。これを物語る有名な例が、1954年にイギリスのロジャー・バニスターという選手が1マイル(1600m)3分59秒4という世界

記録を出した出来事です。それまでの最高記録は、1923年にフィンランドのヌルミという選手が出した4分10秒3でした。その後30年以上もこの記録は破られず、1マイル4分を切ることは人間には不可能というのが常識になっていました。その中でバニスターが“4分の壁”を

破ったことは人類史上大きな偉業となりました。しかし、さらに注目すべきことはこの後の出来事なのです。バニスターが世界記録を打ち立てたわずか46日後に別の選手がその記録を破ります。そして、1年後にはなんと23人の選手が4分を切る記録を出したのです。人間は誰かができると、自分もできるという思考が変わり、本当にそれができてしまうのです。つまり、不可能という限界を作っているのは、自分自身のただの思い込みなのです。

「マインドセット」とも呼ばれるこの先入観や思い込みには、さらに「ピア効果」というものが働き、自分と似ている人間に倣う傾向があります。ウサイン・ボルトの登場で欧米の短

距離の記録が一気に上がりましたが、アジアの記録にはあまり影響がありませんでした。しかし、1998年、当時富士通に所属されていた伊東浩司選手がアジア大会で10秒00という記録を出して以降、アジア人の記録がどんどん上がっていったのです。

そして、2017年9月9日、桐生祥秀選手が100mで日本人初の10秒の壁を破る9秒98をマークしました。私は、9秒台を出す選手が今後ほとんど現れるだろうと予想しています。

● 短距離からハードルへ転向

私は幼い頃から足が速く、走ることが大好きな少年でした。広島東洋カープの本拠地という場所柄、ほとんどの子供たちが野球をする中、私は陸上に打ち込んでいました。中学校では、200mで中学生最速の記録を出したこともあります。自分でもこの調子で行けば好きな100mで、世界で勝負できると本気で思っていました。

ところが、高校に入るとその記録がぴたりと止まり、高校3年間での短距離のタイムはほとんど動きませんでした。原因のひとつは、身長170cm、体重64kgという、現在とほぼ同じ体形が中学生のときにすでに完成されており、その成長の速さがほかの子供たちに比べて高い運動能力を示していたからではないかと思えます。高校卒業を前にして、私は身体能力で勝負する短距離に限界を感じ、技術が必要な競技を模索するようになりました。日本人がメダルを取るスポーツは、生まれ持った身体能力で競うものよりも、技術力が必要な競技が断然多いからです。そこで出会ったのがハードルでした。400mハードルなら技術力で勝負できるのではないかと私は考えたのです。

短距離からハードルへの18歳での転向は、私の人生の最も大きな転機となりましたが、もうひとつそのときに決断したことがありました。そ

れは、コーチはつけず、すべて自分でコントロールしようと思ったことです。自分の頭で考えたことを自分の体で表現してみたい。私のこのような生意気な要望を、唯一法政大学が受け入れてくださり、その後私は法政大学で陸上競技を続けることになりました。

● 失敗をバネにメダル獲得へ

ハードルに転向して4年後の2000年、私はシドニーオリンピックの日本代表選手に選ばれました。しかし、予選で転倒し敗退という結果に終わってしまいました。この経験は、私のその後の人生に非常に大きな影響を与えることになりました。それまでの私の競技人生は常に優勝やトップクラスの成績で、いわばエリートコースを歩んできました。しかし、どれだけ実績があろうとも、実際にオリンピックの現場に立つと、緊張で目の前のことしか見えず、周りの状況に臨機応変な対応ができなくなってしまうのです。それを克服するためにはオリンピックに数多く出場するしかないのですが、4年に1度しかない大会で、多くの選手にとってそれは無理なことです。ほとんどの選手が初めての場所と空気に対処しなくてはなりません。

私は二度と同じ失敗を繰り返さないために、まず自分の失敗をよく見ることから始めました。当たり前なことと思われるかもしれませんが、自分の失敗を直視することは心理的負担が非常に大きいものです。そこでわかったことは、当日の予想外の強風に対応できなかったこと。そして、後半に追い上げてくる外国人選手の作戦にパニックになってしまったことでした。天候に対処するのは難しいことですが、外国人の選手と競い合うなら、海外に行けば経験を積むことができる。私はオリンピックの翌年から、海外での試合中心の

生活を始めました。

海外遠征で外国人選手を個人的に知ることにより、自分の中にある海外に対する緊張が少しずつ解けていきました。これまでの“世界に挑む”という態度ではなく、対等な選手同士として、一人ひとりと一戦一戦競っていけば確実に上に行ける。このような実感を持つことができたことは何よりも大きな収穫となりました。

1年後の2001年、カナダのエドモントンで開かれた世界陸上で、私は人生初の銅メダルを取ることができました。新聞には、「あの転倒があったからこそこの銅メダル」と書いてありました。シドニーでの失敗は、自分に一生ついて回るものだと思っていたのですが、その後の頑張りや、過去の出来事は変わらなくても、その意味が変わってくる。失敗が成功の糧になることを私は学びました。

● 意識が変われば人生が変わる

幼い頃からヒーローになりたいという夢があった私は、世界の舞台でメダルを取ることができ、陸上競技以外の世界でも名前を知っていただけるようになりました。抱いていた夢がなくなった私は、いわゆる「燃え尽き症候群」に近い状態になっていました。いろいろ悩みながらも、現役アスリートにとってゴールはどこかと考えたとき、それは引退の瞬間だと感じました。自分は一生懸命やった、悔いはないという清々しい気持ちで引退したい。そう思った私は、とにかく行けるところまで行ってみようと、競技に専念するために2003年、プロの陸上選手になりました。そして、2005年、フィンランドのヘルシンキで開かれた世界陸上で、再び銅メダルを

獲得することができました。

私が陸上競技を続けてきた理由のひとつに、「意識が変われば人生が変わる」ということを体現したいという思いがありました。私が将来のオリンピック選手たちの先駆者となり、私の経験を基にさらに高いレベルの記録を出してくれることが願いです。

私が大好きな孔子の言葉に、「これを知る者はこれを好む者にし、これを好む者はこれを楽しむ者にし、これを好む者はこれを好む者に、好む者はそれを楽しんでいる者には及



ばない。陸上選手の日常は、朝から晩までひたすらダッシュをするといった地味な練習の繰り返しです。そして、オリンピックに行くことができるのは、その中のほんのわずかな選手だけです。そのような中で最後までやっていける選手とは、苦しいながらもどこかに自分から楽しみを見いだせる選手です。私も、とにかく自分が楽しいように自分の意識を変えていこうという思いで競技を続けてまいりました。私の経験が、皆様のお役に立つことがあればうれしく思います。



LS 研究委員会

研究分科会／短期研究分科会

LS研究委員会では、2018年度研究分科会／短期研究分科会の参加者を募集いたします。LS研究委員会のスローガン「Challenging Innovation」のもと、AI、ブロックチェーンなどの最新技術や働き方改革を中心に研究分科会23テーマ、短期研究分科会3テーマを用意しました。多数のお申し込みをお待ちしております。

2018年度活動

参加者募集中

研究分科会

4月から翌年3月まで1年間
原則月1回実施

「先進的ICT適用」や「情報システム部門が抱える課題解決」などについて、問題意識を持ったメンバーが集まり、Give & Takeの精神で共同研究を行い、成果を創出する活動です。その成果を論文としてまとめ、翌年のLS研総合発表会で発表します。1年間の研究活動を通じ、今後の情報システム部門を担う人材の育成も活動の目的としています。

カテゴリ	No.	研究テーマ名
ICT 戦略／ 人材育成	1	働き方改革に情報システム部門が果たすべき役割の研究
	2	AI活用時代における人材スキルの成長方向に関する研究
	3	デジタルビジネス時代における外部データマネジメント戦略研究
	4	データを利活用するデータコンシェルジュ体制の整備と人材育成に関する研究
	5	業務ノウハウの可視化と継承方法に関する研究
技術／技法	6	UXデザインを活用したモバイルシステムの要求定義手法の研究
	7	テスト見積りにおける標準プロセスと手法の研究
	8	エンタープライズアジャイル開発と従来型開発の共通管理指標の研究
	9	AI・OT ^{*1} ・セキュリティ分野で活用が進む大規模データ利活用の研究
	10	エンタープライズデータの利活用の実現に向けたデータ処理技術の研究
	11	ブロックチェーンを活用したシステムの設計開発手法の研究
	12	クラウドネイティブアーキテクチャを採用したSoEの研究
	13	新たな価値を創造するAR/VRの活用方法の研究
	14	グラフデータベース適用範囲の研究
	15	社内業務システムにおけるRPA ^{*2} 活用の研究
管理／運用	16	暗黙知となっている運用業務スキルの継承方法の研究
	17	AIを活用したコールセンターの統計情報の研究
	18	マルチクラウド時代の企業ネットワークの運用管理のあり方
	19	設備と連携する情報システム群を様々なサイバー攻撃のリスクから守る研究
	20	自動化・AI化の過渡期におけるシステム運用部門の人材育成に関する研究
新分野	21	個人情報流通拡大に伴うビジネス活用の研究
	22	マイクロサービス活用手法の研究
	23	デザイン思考におけるプロトタイプング実践方法の研究

*1 OT : Operational Technology *2 RPA : Robotic Process Automation

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください)

過去の研究成果は ▶ <http://jp.fujitsu.com/family/lskn/activity/work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

短期研究分科会

4月から9月まで半年間
原則月1回実施

No.	研究テーマ名
1	情報システム部門の「働き方改革」～いかにして「ワーク・ライフ・バランス」を実現するか～
2	適用分野の問題特性に適したディープラーニングモデルの研究
3	社内業務におけるチャットボット活用の研究

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください)

タイムリーで実践的、先進的なテーマに対し、市場動向の調査や企業の取り組み状況などの情報を共有します。参加メンバーによる意見交換、調査、検討に重点を置き、調査報告書をまとめた後、成果報告会にて活動結果を発表します。1年間の研究分科会と同様に、富士通グループよりテクニカルアドバイザーが活動をサポートします。

過去の研究成果は ▶ <http://jp.fujitsu.com/family/lskn/activity/s-work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

2017 年度活動報告のご案内

マネジメントフォーラムは、業種業態を超えたリーダー同士が日々抱えている課題を共有・議論することで、これまでにない気づきや明日へのヒントを得られる場として活用いただいています。LS 研セミナーは、先進的な取り組み事例やパネルディスカッションを通じて、情報システムの企画 / 構築 / 運用や ICT 戦略について情報交流を行う場です。

マネジメントフォーラム

リーダー層 / マネージャー層向けイベント
年 2 回実施

【テーマ】

「ビジネスに貢献する ICT 部門を目指して」
- 最前線のリーダーが、今、何に取り組むべきか -

於：湘南国際村センター（葉山）

第1回は2013年度から継続のテーマで、7月13日（木）から1泊2日の合宿形式で開催されました。メンバー 13名、アドバイザー（LS研幹事）2名の体制で、現状分析から課題を抽出し、解決策や具体的施策といったアウトプットを2つのグループが互いに発表し合い、最後にICT部門がビジネスに貢献するために自分ができることを決意表明しました。

第2回は、2018年2月に1泊2日の合宿形式、継続テーマにて開催予定です。



参加者コメント

「冒頭に情報提供として実際の成功事例の紹介があり、考えるヒントをいただいた」「実際のグループ討議では、全体的には組織の課題抽出、課題整理、目指したい姿の具体化、実現手段の考察、といった確立された方法での討議により、抱えていた課題に対する施策が明確になった」「副次的に他業界の事情や解決策がイメージでき、また、新技術の利用等、情報交換ができた」「これからもっと弊社のメンバーを参加させて、育成の場としたい」

LS 研セミナー

ICT部門の部長～リーダー層向けイベント
年 3 回実施

【第2回：テーマ】

ICTを活用した働き方改革

於：東京・大阪

事例紹介やパネルディスカッション、デモ展示などを行うLS研セミナー。第2回は、11月22日（水）に大阪、11月28日（火）に東京で開催。東京海上日動システムズ様、富士通グループからの事例紹介および2017年度LS研ICT白書のご報告が行われました。ご参加の皆様からは、ICTを活用した働き方改革の具体的な取り組みを知ることができたとの声を数多くいただきました。

第3回は2018年2月21日（水）に開催予定です。



参加者コメント

「ツールを使えば働き方改革が推進するという講演ではなく、どのような課題があってそれをどうやって解決していくかという事例を知りたかったため、期待していた内容と一致していた」「富士通の社内実践の成果をお客様に提供するため、先んじての取組が聞けて、参考になった」「気になる話題がテーマになっており、短い時間で必要な情報が得られた」「示唆が含まれたセミナー構成で参考になった」

情報化調査 LS研 ICT白書

会員企業における
ICT 活用に関する調査

LS研 ICT 白書は、LS 研究委員会の会員企業における ICT の活用の現状と今後を把握することを目的に調査した報告書です。

Give&Takeの精神に則り、調査にご協力いただいた会員の方のみに配布をしております。2017年度も多くの会員の方々にご回答いただきまして誠にありがとうございました。

今年度の ICT 白書では、従来の調査テーマに加え、会員団体における機械学習・人工知能技術 (AI) 活用の実態調査というテーマを新規に設定致しました。

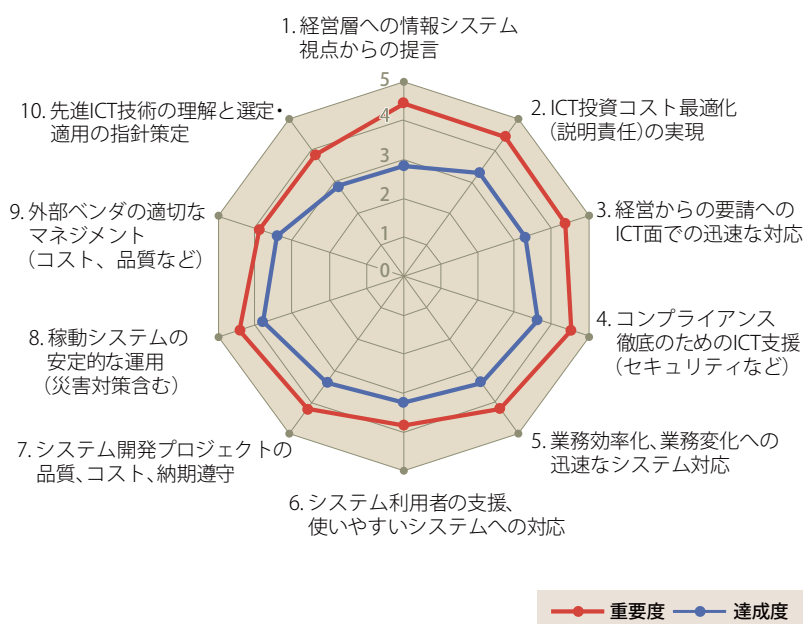
情報システム部門の 役割と機能

情報システム部門の役割として最も重要視されているのは、「コンプライアンス徹底のためのICT支援」、次いで「経営層への情報システム視点からの提言」「ICT投資コスト最適化の実現」「稼動システムの安定的な運用」となっている。

また、重要度と達成度の差分の傾向は、「システム利用者の支援、使いやすいシステムへの対応」「外部ベンダの適切なマネジメント」など従来から情報システム部門に求められている役割・機能に対する達成度は高い。

一方で、「経営層への情報システム視点からの提言」「ICT投資コスト最適化の実現」などの役割・機能については情報システム部門として対応しきれていない意識が強いと考えられる。

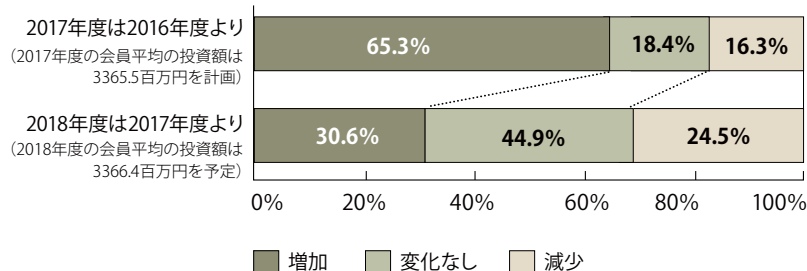
図表 1. 情報システム部門の役割と機能に対する重要度と達成度の認識
(有効回答：116 会員)



ICT 投資状況

2017年度は2016年度よりICT投資額を「増加する」が「減少する」を大きく上回っているが、2018年度は2017年度よりもICT投資額の割合は、変化なし～減少傾向にある。

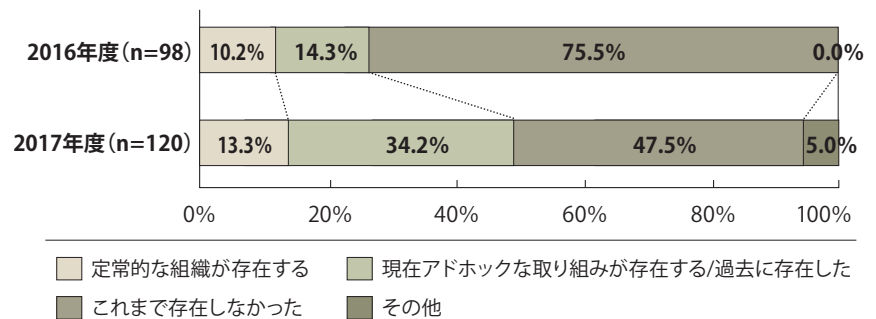
図表 2. ICT 投資額の増減傾向 (有効回答：46 会員)



人工知能利用の 実践事例の有無

「これまで存在しなかった」が最も多く47.5%、続いて「現在アドホックな取り組みが存在する／過去に存在した」が34.2%となっている。

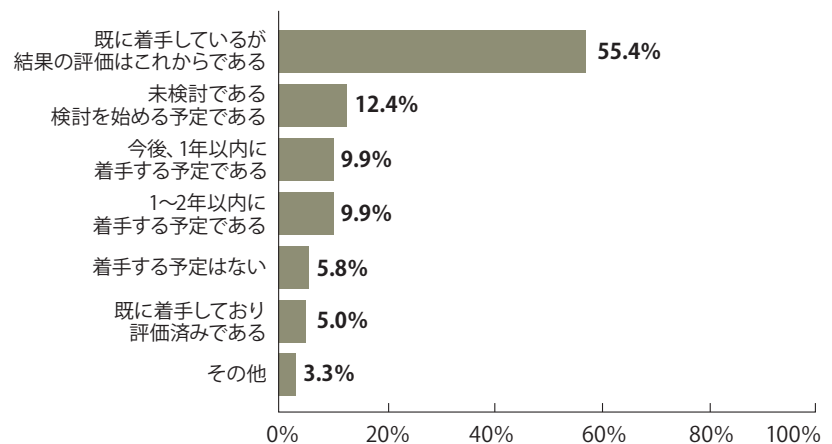
図表 3. 人工知能利用の実践事例の有無 (有効回答：120 会員)



ワークスタイル改革への 取り組み状況

「既に着手しているが、結果の評価はこれからである」が最も多く55.4%、続いて「未検討である、検討を始める予定である」が12.4%となっている。

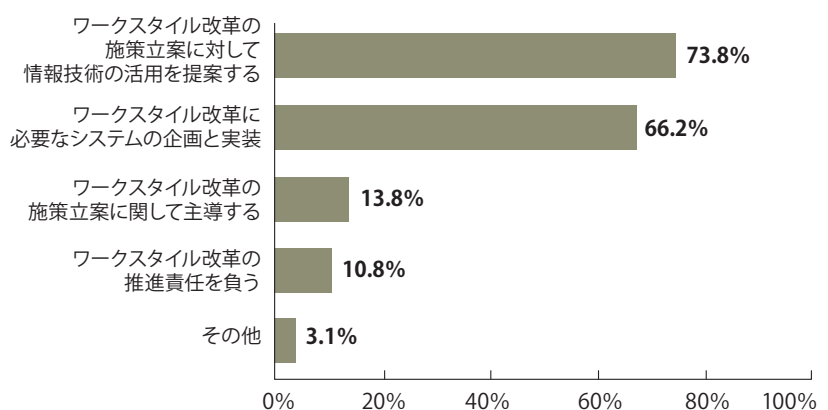
図表 4. ワークスタイル改革への取り組みの状況 (有効回答：121 会員)



推進体制における 情報システム部門の役割

「ワークスタイル改革の施策立案に対して、情報技術の活用を提案する」が最も多く73.8%、続いて「ワークスタイル改革に必要なシステムの企画と実装」が66.2%となっている。

図表 5. 推進体制における情報システム部門の役割 (有効回答：65 会員)





大人の趣味の作り方

はじめての山歩き ①

※380号から3回にわたってご紹介します。



柏 澄子氏

登山全般をテーマにしたフリーライター。公益社団法人日本山岳ガイド協会認定登山ガイド(ステージⅡ)。高校、大学で山岳部に所属し、以来オールラウンドに山を楽しみ続ける。女性の視点からの登山啓蒙に努め、講習会やツアーなどでも積極的に活動する。著書に「山登りの始め方」「山の救急医療ハンドブック」「山歩きはなぜ体にいいのか」(以上、山と溪谷社)、「山歩き基本ハンドブック」「はじめよう!山歩きレッスンブック」(以上、JTBパブリッシング)など。

プロフィール <http://kashisumi.cocolog-nifty.com/>

山歩きの楽しさを知る

● 日常から開放され自然に親しむ

最近、山歩きがブームといわれています。比較的登りやすい人気の山などには、休日には多くの登山者が集まりにぎわって、山歩きに親しむ人が増えていることを実感します。

日本は四季がはっきりとしているので、低い山でも季節によってその風景が大きく変わり、自然の彩りや変化に触れられることが、山歩きの大きな魅力ではないでしょうか。都心であっても電車に1、2時間乗れば、こうした自然豊かな山々を、誰でも身近に楽しむことができます。

仕事に忙しい毎日から開放されて、日常とは異なる環境に身を置くことで、新しい自分を発見することもできるでしょう。山歩きは、年齢や男女を問わず、それぞれの体力に合わせてチャレンジでき、長く楽しめる趣味でもあり、定年後の健康維持にもおすすめです。

● こんなにある山歩きのメリット

山歩きの楽しみ方は、自然と触れ合いたい、高山植物を楽しみたい、高い山に登りたいなど人それぞれです。自分の興味や目的、体力などに合わせて自分自身でプランニングできるのが、山歩きの良さではないでしょうか。

さらに山歩きには、体にも心にも様々なメリットをもたらします。

【山歩きは全身運動】

山歩きは、脚力に頼ったスポーツと考えられがちですが、実は全身を使う運動です。長時間、登りや下りのある登山道を歩くため、当然、脚力は使います。しかし脚力を使うためには、腹筋や背筋といった体の核となる部分の筋力、つまり体幹が必要です。体幹を鍛えられると姿勢が良くなり、腰痛や肩こりの予防にもなり、筋力が増えることでダイエットにも効果的です。

また荷物を背負い、腕を振って歩くことで、肩から背中にかけての筋肉や、胸、腕の筋肉なども鍛えることができます。

【自然の中で心をリフレッシュ】

自然には、人の心をくつろがせる不思議な力があります。美しい落葉や、豊かな緑、足元に咲く花々。自然が描き出す風景は、心の緊張感をときほぐし、癒やしの効果を与えてくれます。

また山歩きでは日常生活と異なった自然、気候などの環境に身を置くことで、脳が新しい刺激を受けて自律神経系に作用し、体調を整えたり、気分をリラックスすることができます。

山歩きには、山頂を目指す、という目的もあります。山頂にたどり着いたとき、素晴らしい眺望を目にして、自分が一つのことを成し遂げたという充実感や達成感を得られます。仕事ではなかなか頻繁に味わうことのできない心の栄養です。

【仕事脳を転換させる】

情報化時代に生きる私たちは、あふれる情報の中に身を置き、脳はハイスピードでの処理と分析を強いられています。

もちろん山歩きも、ぼうっとしてばかりではいられません。天候や目の前の状況、自分の行動の判断など、様々に脳を働かせることが必要となりますが、山の中の情報はインターネットで得られるものとはまったく違い、風の向きや空気の肌触り、鳥の鳴き声、岩をつかむ感触など、視覚や聴覚など五感を働かせて得られるものです。

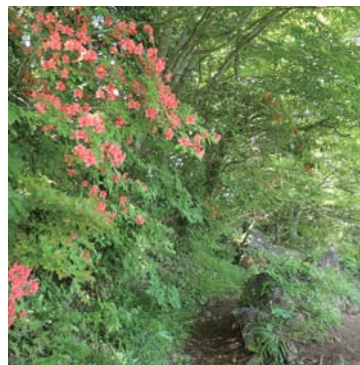
仕事で働かせる脳とは異なる刺激、感覚を与えられることは、脳にとっても新鮮で、とてもよい気分転換にもなります。

● 山歩きのための準備

さあ、あなたも山歩きに挑戦したくなりましたか。でも、最近運動不足で、体力に自信がないと思われませんか。

心配はありません。山歩きはふだんあまり体を動かしていない人でも、自分のレベルや体力に合わせられるのも魅力の一つです。最初は短い距離で、起伏の少ない山を選ぶのもいいでしょう。山歩きを前向きに考えはじめたら、少しずつ体をならしていくのもおすすめです。駅や仕事場で、なるべく階段を使って昇り降りする。夜寝る前にストレッチをして体をほぐす。そんな簡単なことから始めてみてはいかがでしょうか。

次回382号では、山歩きをはじめするための準備についてお話します。



きれいな花々に出会えることも。

Family's Information

FUJITSUファミリー会をもっと楽しく活用していただくための様々な情報をご提供します。

FUJITSU ファミリー会事務局 E-mail : contact-familykai@cs.jp.fujitsu.com

会報 担当幹事から



四国支部
上杉 尚志
株高知県農協電算センター



2017年3月にオープンした高知県立高知城歴史博物館を紹介します。

場所は、高知城のふもと追手門の向かいで、人気のひろめ市場や日曜市、中心商店街にも隣接しています。展望ロビーからは、高知城、追手門が一望できます。

博物館では、国宝や重要文化財を含む約6万7千点に及ぶ土佐藩主山内家伝来の貴重な資料を中心に、土佐藩・高知県ゆかりの歴史資料の数々を収蔵・展示しています。実物資料を中心に、体験型展示や映像、メディア機器などで、大人から子どもまで楽しみながら歴史を学ぶことができます。また、博物館のオープンに合わせて「志国高知幕末維新博～時代は土佐の山間より～」(平成31年3月31日までの予定)が開催されており、そのメイン会場の一つとなっております。坂本龍馬をはじめ、中岡慎太郎、ジョン万次郎、岩崎彌太郎など偉人ファンの方もきっと満足できる内容です。

坂本龍馬没後150年、大政奉還からも150年という節目の年、高知城歴史博物館を目的地のひとつとして、ぜひ高知へお越しください。



NEW FAMILY (9～10月度ご入会分)

- 北海道 (株)富士通パーソナルズ
- 東北 (株)宮城衛生環境公社
トッパン・フォームズ(株)
(株)ホットマン
(株)仙台銀行
(株)アサカ理研
第一物産(株)
伯東(株)
インフォコム(株)TGサポート部
(株)松栄シルク
兼松(株)
エムアイエフ(株)
(株)アルメックス
ジープ(株)
大成ロテック(株)
(有)ユアサ
(株)バイク王&カンパニー
長沼商事(株)
岩井コスモ証券(株)
NTTインターネット(株)
(株)タケエイ
(株)木曾路
(有)夢みるかたつむり企画
JA千葉中央会
- 信越 山洋電気(株)
- 北陸 (株)ビーイングホールディングス
(株)スギヨ
Y K K (株) 工機技術本部
- 東海 (株)アルメックス
タジマ工業(株)
- 中国 ダイワボウ情報システム(株)
マツダエース(株)
ザッポロビル(株)中四国本部
リョービ(株)
- 九州 (株)筑邦銀行

支部からの お知らせ



関東支部 新企画

「アメリカンフットボール観戦イベント」 を実施！

2020年の東京オリンピックを控え、日本全体のスポーツ気運が高まる中、FUJITSUファミリー会関東支部では、初の試みとして「アメリカンフットボール観戦イベント」を開催しました。

11月26日(日)超満員の富士通スタジアム川崎で行われたXリーグJXB トーナメントセミファイナルに、親子連れを含む8会員15名が参加しました。試合は接戦の末富士通フロンティアーズが勝利、5年連続で決勝戦であるJAPAN X BOWLに進出しました。

当日は、フロンティアーズにご協力いただき、スタジアムの裏側や練習風景を見学できるオプションツアーも開催されました。



フィールド内で記念写真

〈参加者の声〉

- ・富士通のスポーツを応援しているので、色々な競技を紹介してほしい。
- ・今後も是非このイベントを開催して欲しいです。今後の試合経過もチェックしたいと思っています。
- ・普段入れないフィールドに入ることができて貴重な経験になった。

ファンクラブについて

<http://sports.jp.fujitsu.com/frontiers/fanclub/>

2018年度 秋季大会



長野にて皆様のお越しを お待ちしております

信越支部長 赤沼 正信 氏 (オリオンシステム株式会社)

2018年度の秋季大会は信越支部・長野市で開催いたします。

会場は長野冬季オリンピック大会が開催されたスタジアム「ビッグハット」です。1998年に長野冬季オリンピック大会が開催され、来年度は記念すべき20周年を迎え各種のイベントも企画されますのでお楽しみいただけたらと思います。

ここで、長野県の魅力をご紹介しますことができます。

「自然」「食」「温泉」「歴史」といった、4つのキーワードがございます。「自然」は、3,000メートルを超す山々に囲まれ、日本百名山および日本百棚田選に選ばれている場所が20カ所以上で日



本第1位であり、風光明媚な風景をお楽しみいただけます。「食」は、野菜摂取量および野菜収穫量は高原野菜を中心として日本第1位で、レタス・セロリ・りんご・ぶどう・ソバなどでその味わいをお楽しみいただけます。

「温泉」は、第1位の北海道に続き、第2位の温泉地が231カ所あります。さらに周辺にはキャンプ場が200カ所以上あり、春夏秋冬を通して楽しんでいただく場所が多数ございます。

最後に「歴史」ですが、長野県は美術館・博物館が日本一でございます。総務省の発表によりますと、人口10万人当たりの博物館・美術館が全国平均0.9館に対しまして、長野県の場合は、4.9館あります。お越しの際は有名な美術館・博物館の散策もお勧め致します。

2018年10月18日(木)長野にて、皆様のお越しをお待ち致しております。

是非多数の皆様のご参加をお願い致します。

2017年度 海外セミナー レポート



ドイツで初開催！ 海外セミナー

期間：2017年11月6日(月)～11日(土)
訪問都市：ミュンヘン、アウクスブルク(ドイツ)

海外セミナーは、会員企業のグローバルでの知見を広め、相互交流／人材育成の一環として年2回開催しています。今回は富士通フォーラムが開催中のドイツを初めて訪問しました。

内田ファミリー会会長を団長として総勢19名が4泊6日の旅程で、経済セミナー受講、企業視察を行いました。

滞在都市ミュンヘンは札幌より北に位置するた

め、冬の寒さが厳しく、真冬の服装で臨みました。ドイツの経済規模はヨーロッパ随一で、名目GDPも世界第4位(USドルベース 2016年)です。ミュンヘンを州都とするバイエルン州は連邦共和国であるドイツの中で最大の州であり、BMW、アウディ、シーメンス、アディダスといった世界企業が名を連ねるだけではなく、競争力のある中小企業が経済を支えています。

BMW ミュンヘン工場やアウクスブルクの富士通パソコン／サーバ工場を訪問し、自動化や効率的な生産ラインを見学すると共に労働者に配慮した職場環境も実感しました。また、富士通フォーラムでは世界各国から1万人を超える来場者が訪れ、日本とは違う雰囲気の中での講演や、様々な展示、夜のパーティを体験しました。

ドイツはビールの本場であり、料理も美味しく日本人には滞在し易い土地柄です。参加者の中には『また訪れてみたい』という声も多く聞かれました。

来年度もさらに充実したセミナーを企画していきます。ご期待下さい。



訪問先のBMW本社



富士通フォーラム会場前

参加者が作成したセミナー報告書は、こちらのURLから是非ご参照ください。 URL:<http://jp.fujitsu.com/family/seminar/17germany/pdf/hokokusho.pdf>

正解者全員プレゼント クロスワードパズル

クロスワードをすべて解いたあと、2重枠のA~Gの7文字で一つの言葉(解答)を完成させてください。



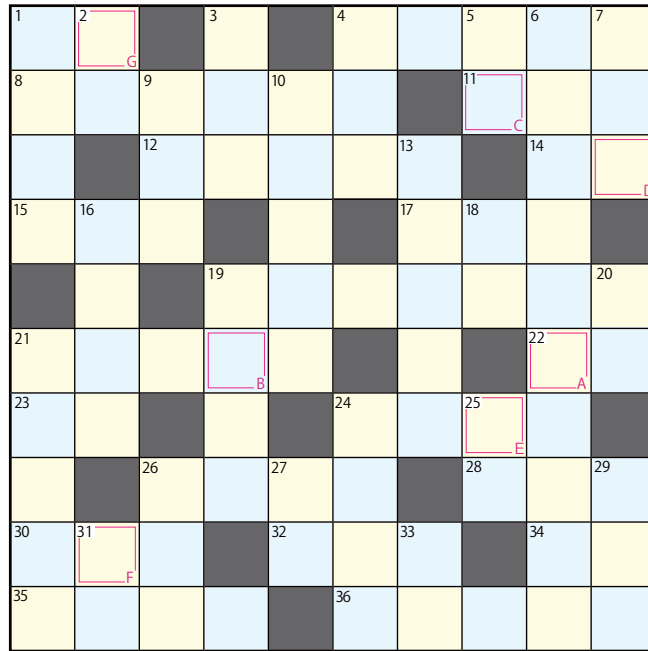
解答

A B C D E F G

の実践を目指そう!

タテのキー

- 1 約3,800会員を擁するFUJITSU ○○○○会
- 2 ○○転変は世の習い
- 3 バッハのオルガン名曲、トッカータと○○○
- 4 年末に贈ったのはお○○○、夏に贈るのはお中元
- 5 寝る時に就く所
- 6 顧客が商品やサービスを購入するまでの過程を旅に例えた言葉
- 7 清流に住む、人の苗字みたいなサケ科の魚
- 9 栄誉ある者という意味で、ゴルフで最初に打つ人
- 10 ICTを活用した、場所や時間にとられない柔軟な働き方
- 13 カチカチ押せば芯が先から出てくる文房具
- 16 調理や裁縫を習う教科
- 18 力士が土俵に撒く
- 19 「OK Google」と、○○○○で検索したり操作したり
- 20 噂などが広まること
- 21 社会情勢や証券界などの調査・分析専門家



- 24 机と椅子を持って、ガタガタ教室内お引越し
- 25 考えて絞り出す
- 26 システムの物理的な構成要素である、○○○ウェア
- 27 エコロジーやエコノミーの略
- 29 アップさせたい特殊技能や技術
- 31 身体の司令塔
- 33 「ヨ」の鏡文字

- 32 家の外ってこと
- 34 同じ畑で年2回同じ作物を栽培する、○○作
- 35 銀行のトップ役職
- 36 コンピューターを利用し、現実風景に情報を重ねて表示する技術



ヨコのキー

- 1 コレを切って手紙を取り出す
- 4 中学や高校の自治組織
- 8 「モノのインターネット」と訳される情報通信技術概念
- 11 費用対効果=○○○パフォーマンス
- 12 夜空をキラッ、消える前に願い事3回唱えよう
- 14 ザーザーと降るのが多いこと
- 15 酒屋=○○○ショップ
- 17 源平合戦の大きな舞台の一つ、○○○の戦い
- 19 サロペットともいう、胸当てとサスペンダー付きのズボン
- 21 角膜炎のこと
- 22 我が社の技術は日本一だと○○ししております
- 23 ケンカするほど良いという
- 24 玉露のように被覆をせず、新芽に太陽の光を充分当てた日本茶
- 26 鉄道路線の廃止に伴い発生する
- 28 野球チームの主力投手
- 30 人気の顔認識カメラアプリといえ

正解者全員に記念品を贈呈します。

解答記入事項

1. 解答(7文字)
 2. 解答者のご連絡先
会員企業(団体)名、ご所属またはご役職、お名前、所在地、連絡先電話番号、E-mailアドレス
- ※掲載にあたっては、会員企業(団体)名、お名前(ペンネームでも可)、所在地を記載させていただきますので、あらかじめご了承ください。

- 【応募資格】ファミリー会会員企業(団体)の方に限ります。
 【解答&当選者発表】381号(2018年2月20日発行/3月号)誌上
 【解答送付先】ファミリー会ホームページ「クロスワードパズル解答募集!!」投稿フォームよりお送りください。
 【締め切り】2018年1月31日(水)
<http://jp.fujitsu.com/family/ho/crossword/>



上記QRコードよりアクセスできます。

From名古屋



名古屋の繁栄を支えた 未曾有の都市計画

経済の強さを誇り、今もリニアの開通に向けて活発な再開発が進む名古屋。その繁栄のベースには、100m道路に代表される、大胆な戦後復興都市計画の施行があった。なぜ名古屋で他に類を見ない再開発が可能だったのか。その熱意とパワーの秘密とは――。

の焼け跡に立ち上げられた計画は、単なる復旧に留まらず、将来の文化産業都市への発展を期した、きわめて壮かつ大胆なものだった。

道路は格子状に走り、100m道路を含めて50m以上の道路が11本、30m内外の道路20本、25m級が11本と、はるか先のモータリゼーションを先取りする計画だった。名古屋都市センターの調査研究アドバイザー杉山正太さんは、「中心市街を十字に区切る100m道路は、大火の際に延焼を防ぐ役割も担っています。戦災の記憶を反映していたのでしょう」と解説する。

鉄道は、高架か地下を走るものとし、東西・南北2本の地下鉄の新設も計画された。画期的だったのは寺院と交渉して278カ所あった墓地を集団移転させたことだ。これで再開発の支障となっていた墓地問題は解決。郊外に広大な公園墓地「平和公園」が造られた。

戦災復興都市計画を履行する手段として使われたのは、「土地区画整理」だ。今も復興や再開発に欠かせない手法だが、地権者から公園や道など公共に使う土地を少しずつ供出してもらい(=減歩)、形の整った代替地を元の土地の大きさに応じて提供(=換地)して計画を進めていく。

時代を先取りした大胆な 戦災復興都市計画

テレビ塔から見渡せば、見事な緑のベルトがビルの町を区切って伸びる。今では名古屋駅周辺に高層ビルが林立する風景にとって代わられた感もあるが、名古屋のまちづくりのシンボルといえば、やはりこの100m道路だろう。南北に久屋大通、東西に若宮大通。交差して走る二つの道は、道とはいつでも幅100mのうちの多くを豊かな緑が占めるいわば公園道路で、まちにみずみずしい潤いを与えている。

都市計画の成功例として知られる、現在の名古屋のまち。そのベースは、戦災復興都市計画によって形づくられたものだ。名古屋は軍需工場が集中する商工業都市だったため、激しい空襲を受け、市域の25%、中心地に至っては50~60%が灰燼に帰している。そ

左上 / 1954年にテレビ塔が建ち、整備が進む久屋大通(1955年)★
右上 / 久屋大通は、ビル街を縦断してグリーンベルトを形づくる☆



1950年、何も無い久屋大通周辺。左に残っているビルは松坂屋★



名古屋城越しに見る、名古屋駅周辺の高層ビル群☆

区画整理で生み出された 広い街路と緑の公園

名古屋の復興事業では、復興計画対象面積3,451.7haに対して、道路が占める割合は計画施行前の13.6%が28.9%に、中心部に限ると17.3%からなんと40.9%にまで増加。公園面積も全体で1.3%から4.1%になっている。その分69,740名いた地権者たちは3割以上もの減歩を受け入れることになった。焼け野原にも残っていた建物はあり、対象区域には焼けなかったエリアもかなり含まれていたため、建物の移転は約44,000戸に及ぶ^{*}。減歩を受け入れるだけでなく、場合によっては建物を壊して代替地に新たに建て、由緒ある建物は曳家をして移動させる。大事業を実施した市の熱意と実行力、名古屋市民の協力には驚きを禁じ得ない。

名古屋では終戦直後の9月に市議会で「名古屋市再建に関する決議案」を全会一致で可決。杉山さんいわく「市は真っ先に全国から測量器具の調達に動いたと聞いています」。12月には復興調査会が「大中京再建の構想」を発表し、翌年春には基本計画が策定されるなど復興への歩みは見事に素早かった。

実はこれらの動きは国の施策に応じたものでもあった。終戦後ただちに内務省が復興計画の検討をスタートし、暮れには「戦災地復興計画基本方針」が出されて、全国の都市で戦災復興都市計画が進められた。東京や大阪でも100m道路は計画されていたという。しかし1949年にGHQが財政支出の厳しい引き締めを行い、各地の計画は大幅な縮小を余儀なくされた。

「ところが名古屋ではすでにほぼ代替地の指定が完了し、建物の破却や建設の準備が進んでいました。今さら計画の縮小はできない。そう主張して復興事業を進めることができたのです」。

ではなぜ、これほど区画整理を早く進められたのだろうか。それは名古屋にすでに区画整理事業を行ってきた土壌があったからだと杉山さんという。戦前の名古屋の中心地は江戸以来の古

いまちで、城下町特有の曲折のある細い街路に家屋が密集していた。市街地の動きは周辺の農地へと向かったが、これを行政が誘導し、地主たちの手で区画整理事業が進められた。旧市街地についても「なんとかしなければ」という気運はあり、名古屋駅前に区画整理による再開発計画があったという。

「転禍為福」を可能にした 先進のまちを志向する遺伝子

戦災で旧態のまま取り残されていた古い町並みは焼失し、シンボルだった名古屋城天守閣も失われた。被害の大きさに、逆に「転禍為福、災いを転じて何としても福に」との気概が名古屋人の間に生まれた一面もあったと思われる。また、復興を主導した田淵寿郎の存在も見逃せない。内務省の元技術官僚で名古屋への赴任経験があった田淵を、当時の市長が技監として招聘（後に助役）。「強い信念で計画を推進しました。墓地移転も彼が立案したものです」と杉山さんという。計画には激しい反対もあり、まちに趣きが失われたという批判もあった。しかし戦後70年を経て、広々とした街路空間と豊かな緑に恵まれた現在のまちの姿と名古屋の繁栄が、その成果を物語る。

復興土地区画整理の収束と前後して、市では1980年から重点地区を定めてさらに市街地の整備を進めている。1999年のJRセントラルタワーズを皮切りに、ミッドランドスクエア、大名古屋ビルディング、JPタワー名古屋、2017年4月開業のJRゲートタワーなど、名古屋駅周辺では高層ビルが次々と立ち上がり、新たなにぎわいを創出して話題を呼んでいる。また、旧来からの繁華街である伏見や栄地区でも再開発の動きが活発化。名古屋駅でもさらに2027年のリニア中央新幹線開業をにらんで、名鉄ビルなど複数のビルを一体で長さ約400mのビルに建て替える計画が進む。

戦災復興の遺伝子を受け継ぐ、名古屋の未来を見据えたまちづくりの足取り。その行方が見逃せない。



名鉄ビルを含めた複数のビルが、高さ160～180m程度で南北400mに伸びる高層ビルに生まれ変わる(予定)
パース：名古屋鉄道提供



100m道路(久屋大通)中央の公園の両端に一方通行の道路が走る



1955年頃、戦前からの繁華街の中心、栄交差点。拡幅が済んだ状態★



オアシス21(手前楕円の屋根のある施設)など再開発が進む栄周辺☆

※数字データは『復興土地区画整理事業のあらまし』1991名古屋都市計画局による。

協力・写真提供／公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター(写真★)・公益財団法人名古屋コンベンションビューロー(☆)



FAMILY 通巻380号 2018年1月1日発行

編集責任者 FAMILY編集委員会 岡嶋 友

発行 FUJITSUファミリー会

F105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 富士通(株)内

Copyright 2018 FUJITSUファミリー会 [禁断転載]

<http://jp.fujitsu.com/family/>

※本誌記事中の各会社名、各種製品名等は、各社の登録または登録商標です。
※本文にある専門家による情報・意見は、必ずしも富士通・編集委員会の見解を反映したものではありません。
※本誌には、森林認証紙、植物油インキ、有害な廃液を出さない水なし印刷方式を採用しています。